

令和5年度第9回 感染症発生動向調査協議会
議事要旨

1 日 時 令和5年12月20日(水) 14:00～

2 場 所 岐阜大学医学部本館 1階 小会議室(岐阜市柳戸1-1)

3 出席者

委 員 : 馬場 尚志(岐阜大学医学部附属病院 生体支援センター センター長)
大西 秀典(岐阜大学大学院医学系研究科 小児科学 教授)
加藤 達雄(国立病院機構長良医療センター 副院長)
石山 俊次(石山泌尿器科皮膚科)
オブザーバー: 市原 拓(岐阜市保健所 感染症対策課 感染症対策係長)
事務局 : 八代 英彦(感染症対策推進課 管理監)
汲田 淳(感染症対策推進課 感染症対策第二係長)
可知 正行(感染症対策推進課 主任技師)
今尾 幸穂(保健環境研究所 疫学情報部長)
岡 隆史(保健環境研究所 主任専門研究員)

4 議 題 (進行:加藤委員)

- (1) 前月の感染症発生動向について
- (2) 検討すべき課題について
- (3) 情報提供(月番委員専門分野から)
- (4) その他(感染症対策推進課から)

5 議事要旨

【前月の感染症発生動向について】

- ・事務局からの説明は資料のとおり。
- ・月番委員のコメントについては資料のとおり。

【検討すべき課題について】

○インフルエンザ患者報告数の増加について(継続)

(事務局から)

- ・過去数週間の1医療機関当たりの患者報告数は20人前後で推移し、頭打ちした感もありますが、COVID-19発生前の流行期には60人程度まで達していたことから、今後も発生動向に注意していく必要があると考えています。

(委員から)

- ・平常時対応に戻ったものの、公衆衛生対策への意識はまだ社会にある程度残っており、そのことが流行の拡大をやや抑えているのかもしれませんが。
- ・年末年始は会食の機会が増え、人流が活発になる時期です。過去数年間の行動制限への反動から、その動きがさらに加速するかもしれず、それによって流行の終息が遅れる、あるいは今後さらに流行が拡大することも考えられます。今後の発生動向にはなお注意が必要と考えます。